

I-18. イノベーション対話促進プログラムワークショップ設計及び事例調査

Workshop Design for Boosting Open Innovation

 キーワード Key Word	産学連携、オープンイノベーション、ワークショップ industry-university cooperation, open innovation, workshop
---	--

1. 業務の目的

本業務は、大阪大学が「大学等シーズ・ニーズ創出強化支援事業(イノベーション対話促進プログラム)」(文部科学省)に採択されたのを受け、そこで行われるワークショップの設計や創発的な場づくりのための海外調査等を行ったものである。

2. 業務成果概要

(1) 業務の内容

業務内容は以下の通りである。

① ワークショップの設計

大学をノードとしたオープンイノベーション型の新しい産学連携の具体的なモデルを考え、実践することを目的に、2回のワークショップを設計、実施した。なお、ワークショップの実施にあたり、「産業界と大学が連携する上で重要なコト」とは何かについて、企業等の関与者に対しインタビュー調査を実施した。

具体的には次のようなものである。

ワークショップ	概要
第1回「産業界×大学→やりたい！やるべき！できること」 2014年1月24日(金) 大阪大学吹田キャンパス	産学連携にかかわる多様なアクターが、「産学連携」に対してどのような価値観や考え(世界観)を持っているのか、何を重視しもしくは軽視する傾向にあるのかをQ方法論という統計解析により可視化し共有する。それぞれが持つ世界観を他者との相互作用の中で見つめ直す作業を通じて、あるべき新しい産学連携の方向性をともに探る。
第2回「産業界×大学→あたらしいプロジェクトを構想する」 2014年3月28日(金) 大阪大学吹田キャンパス	類似の世界観を持つ者同士でチームを編成し、チームごとに新しい形のプロジェクトを構想する。少子高齢化を迎えた2040年の理想的な大阪の姿として、「身体や認知等の機能、住んでいる地域の違いによらず、多様な働き方が社会に受容され、臆することなく他人に身の回りのことを任せられるようになっている。」という状態をイメージとして掲げ、バックキャスト型で議論を実施。

② 海外調査

新しい産学連携の在り方や創発的な場づくりのための構想を得るために、オープンイノベーション先進国のフィンランドを訪問し、ヒアリング調査を実施した。なお、訪問先の選定にあたっては、いくつかの候補となる国・機関の情報を幅広く収集し、比較検討を行った。

訪問先は次の通りである。

日程	訪問先
2014年2月12日(木)9:00-12:00	ヘルシンキ大学活動・発達学習研究センター
2014年2月12日(木)13:00-15:00	フィンランド技術イノベーション庁(TEKES)
2014年2月13日(金)9:00-14:30	アアルト大学